

生徒さん達の感想

・今回の九大医学部訪問では沢山のことを学ぶことができた。驚いたこともいくつかある。まず、放射線は自分たちの体からも出ているということである。放射線といえば、危険で身近にしたくないものであるが、まさか自分の体からβ線やγ線が細胞の活動の上で出ているとは思わなかった。また、放射線による治療もがん細胞をピンポイントで殺せるようになっていて、というので、現代の医療では無駄な放射線を人に浴びせないようにしっかり工夫されているのだと思った。

・午前中は、生命科学のおもしろさを学ぶことができただけでなく、研究のさいに注意することや配慮していることについて学ぶことができ、非常に自分のためになるものであり、探究心を持ち続けることは素晴らしいことだと思いました。自分はどちらかといえば研究医になるよりも臨床医として働きたいと思っているのですが、生命の不思議を解明するために研究して物事の真理を追求していくのも面白そうだと感じました。今回の九大医学部訪問で、最もはっきり感じたことは、医学を学び、医者として働きたいということです。医者になる前もなつた後でも勉強を怠ることなく自分自身常に向上していこうと思います。

・午前中の基礎放射線医学分野については、今まで知らなかったがんと放射線医学の関係性やDNAの酸化の原因など、たくさんのことを学ぶことができました。医学への関心がさらに深まりました。また、知らない言葉が多数出てきてついていけないことがあったので、もっと医学についての知識を深めないといけないと実感しました。

・今回の講義を通じて、癌はDNAの損傷が原因であり、その部分が突然変異をひき起こして細胞の異常な増殖が止まらなくなることによって発生する病気だということ、そして癌が遺伝に関係しているのは、DNAの損傷の修復に必要な遺伝子が遺伝的に欠損している例もあることから分かることを知りました。そして、DNAのキズと修復のメカニズムを知ることによって癌の発生そのものを未然に抑制できること、またその人のDNAの構造を研究することで、どの薬がその人に最も効果的で副作用が少ないかを診断できることを知り、DNAの構造にはたらきかける薬や治療法の開発は今後ますます発展していくのではないかと思えて、とても興味をそそられました。これまでは医療といえばまず病気の治療が真っ先に脳裏をよぎっていましたが、一番大事なのは発症を未然に防ぐこと、つまり予防が大切であることがわかりました。DNAの損傷を修復するメカニズムを研究することで日本の死亡原因の最も大きな割合を占める癌の予防が可能になれば、とても画期的なことだと思います。

・まず濱教授に先生自身がなさっている研究の概要について講話をいただいた。DNAが絶えず損傷しており酵素が絶えずそれを修復しているという話はとても興味深かった。研究という道への興味が深まった。次に研究室の見学では、遠心分離機や遺伝子DNAを自動的に複製し増幅させる機械を見せていただいたり、研究におけるマウスの利用法や、その現場をお話いただいた。研究室を実際に見ることによって、大学生活への憧れがさらに強まった。